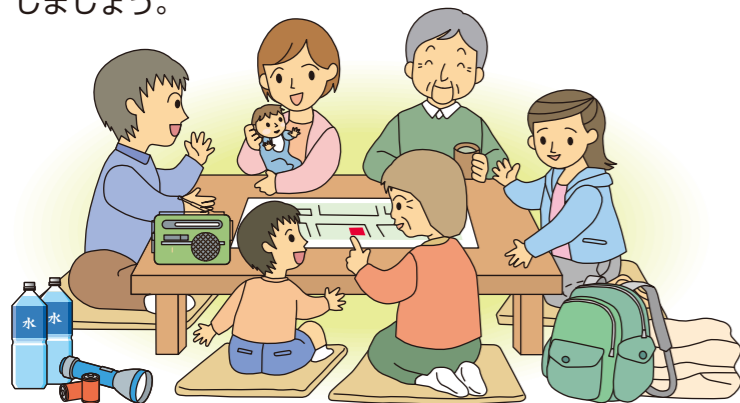




普段から災害に 備えておきましょう

家族で防災会議をしましょう

災害は家族が一緒にいる時に起こるとは限りません。いざという時、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。また、災害に備えて家の中と外とをチェックし、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。



話し合いたい項目

- 集合場所・避難場所・避難経路
- 災害が起こった時の身の守り方
- 家の付近の浸水状況や、土砂災害の危険箇所の確認
- 家族が離れているとき、災害が発生した場合の連絡方法
- 家族一人ひとりの役割分担
家族の安否確認、非常持ち出し品・非常備蓄品の準備・点検、避難経路の確保、隣近所への連絡など

※乳幼児・高齢者・障がい者・病人・妊産婦のいる家庭はその避難方法も話し合しましょう。

わが家の安全対策を確認しましょう

家の中の安全対策

- 飛散防止フィルムを貼る。
- 家具の転倒、落下防止のため、金具などで固定する。
- 就寝場所に家具が倒れてこないように配置する。出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにする。
- 風呂の浴槽の水を溜めておく。(災害などで断水した時に生活用水として利用できる。)
- 住宅用火災警報器や住宅用消火器を設置する。
- たこ足配線やコードを束ねて使用しない。

家の外の安全対策

●情報を確認して、災害による危険が迫る前に対策をしておきましょう。

- アンテナはしっかり固定されていますか。
- 外壁に亀裂はありませんか。
- ブロック塀にぐらつきや亀裂はありませんか。
- 側溝や雨水ますにゴミや土砂が溜まっていませんか。



- 瓦のひび割れ、はがれはありませんか。トタンのめくれ、はがれはありませんか。
- 窓枠のがたつき・ひび割れはありませんか。
- 鉢植えや物干し竿など、落下や飛散の危険はありませんか。
- プロパンガスのボンベは固定していますか。

自主防災組織や自治会(地域)の活動に参加しましょう

日頃から地域の皆さんと一緒に、防災活動に取り組むための組織が「自主防災組織」です。自主防災組織の活動には、平常時及び災害時の活動があります。平常時の活動の成果が、万が一の災害発生時に活かされますので、日頃から地域の皆さんで、役割分担や防災資材、地域内の災害時要援護者などの情報確認等を行い、訓練を実施しておくことが大切です。

防災知識の普及・啓発

防災訓練や講習会を通じて、正しい防災知識を住民に伝える。

平常時の活動

自主防災組織の活動で重要なのは、活動の必要性や重要性を理解してもらうことです。

防災巡視・点検

地域内の危険箇所や防災上の問題点を洗い出し、改善する。

防災資機材の整備・点検

地域の実情に応じて、消火用具や避難・救出のための防災資機材を準備する。

防災訓練

いざというときのために、地域一丸となって訓練を重ねる。

情報の収集・伝達

公的機関と連絡を取り合い、情報を住民に伝える。

災害時の活動

自主防災組織の非常時の活動として、以下のような想定が多く見られます。

医療救護

負傷者の応急手当てを行い、救護所へ移送する。

救出・救助

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助を行う。

避難誘導

住民を避難所などの安全な場所に誘導する。

初期消火活動

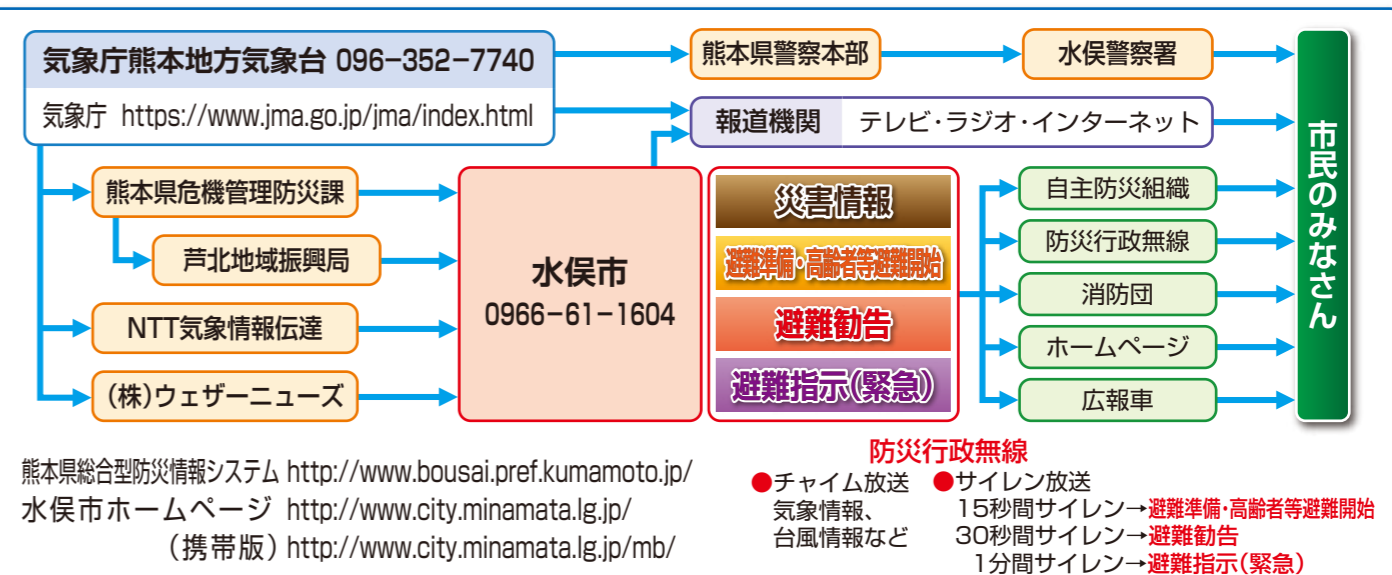
出火防止や初期消火活動をする。

避難所の運営

避難所で給食・給水活動などをする。

緊急情報の伝達方法

市では、災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには「災害対策本部」を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発表します。



熊本県総合型防災情報システム <http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>
 水俣市 ホームページ <http://www.city.minamata.lg.jp/>
 (携帯版) <http://www.city.minamata.lg.jp/mb/>

防災行政無線
 ●チャイム放送
 気象情報、台風情報など
 ●サイレン放送
 15秒間サイレン→避難準備・高齢者等避難開始
 30秒間サイレン→避難勧告
 1分間サイレン→避難指示(緊急)